



【韓国】 総合指数は週間で3.3%高と7週ぶり反発、今週は上値重いか

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で3.3%高と7週ぶりに反発。1月31日ー2月2日は旧正月で休場のため、2日間のみの取引。前週末に約1年2カ月ぶり安値で終えただけに、連休中に米株高が進んだことから、買い戻しが入った。連休明けの3日は節目の2700ポイントに乗せてスタート。韓国の1月の輸出額が同月として過去最高となったほか、国内の製造業景況感の改善も好感され、指数は一時2.7%高まで上昇したが、終盤に上げ幅を縮小した。4日も買いが優勢。米株価指数先物の上昇で投資家が運用リスクを取りやすくなり、海外投資家などの買いが相場を押し上げた。同日発表のCPIが市場予想を上回り、利上げ観測が強まったほか、国内のコロナ感染者数が連日で過去最高を更新したが、市場の反応は限られた。今週は上値が重いか。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は2.1%高と続伸、今週はウクライナ情勢をにらんでもみ合いか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で2.1%高と続伸。ウクライナを巡る地政学リスクが和らぐ中、原油高を受けたエネルギー株の上昇が指数を押し上げた。週明け1月31日のRTS指数は前週末比2.0%高。米国とロシアの交渉継続によりウクライナを巡る緊張が緩和するとの期待が高まる中、欧米株高やブレント原油が91ドル台に上昇したことが好感された。3日は金融引き締めスタンスを嫌気した欧米株の下落を受けて指数は2.2%安と8営業日ぶりに反落したが、4日はブレント原油が93ドル台に上昇したことを追い風に指数は0.3%高と反発した。個別では鉄鋼のセヴェルスターリが5.8%、エネルギーのルクオイルが3.5%、産金のポリュスが2.6%上昇した。今週はウクライナ情勢や原油相場をにらんでもみ合う展開か。

▼指数チャート



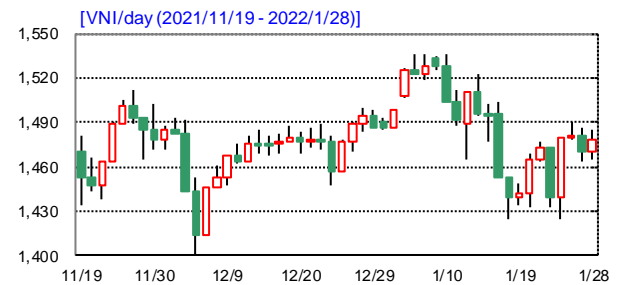
【ベトナム】 ベトナム指数は旧正月で休場、今週は前週の海外相場受け底堅く推移か

移か

先週の動き／今週の展望

ホーチミン証券取引所はテト（旧正月）の連休のため1月31日ー2月4日の丸1週間にわたり休場。旧正月前は1月初めに株価が上昇し、終値の過去最高値を更新したものの、その後はやや軟調な値動きが続いた。1月の月間下落率は1.3%だったが、1月24ー28日の週は0.4%高と3週ぶりに反発している。主力大型株が売られ、週初に大きく下落したが、その後は銀行株などを中心に押し目買いの勢が強まった。7日に取引が再開される今週は堅調な展開か。旧正月明けの株価は例年、休場期間中の海外株式市場の動きが色濃く反映される。主要先進国の金融引き締めが上値を圧迫する恐れはあるものの、ダウ平均が先週1週間で1.0%高と続伸しただけに今週のベトナム株市場は底堅く推移する可能性があると思込まれる。

▼指数チャート

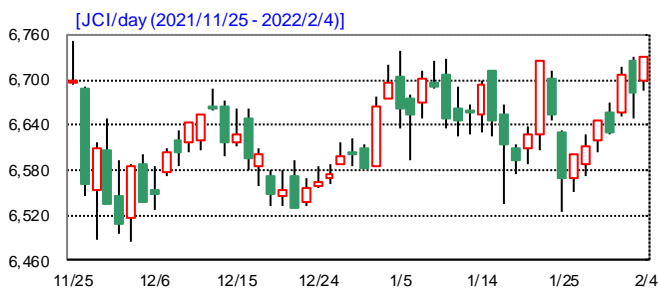


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.3%高、今週は 21 年 10-12 月期の GDP が焦点

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 1.3%高と反発。1 月月間では 0.8%高。先週は一進一退の値動きが続く中、週末の終値は引け際の買いが奏功し、2 週間ぶりに過去最高値を更新した。週初の 31 日は金融株が下げを主導し、4 営業日ぶりに反落したが、祝日を挟んだ 2 日は、1 月の CPI 上昇率が前年同月比 2.2%と中央銀行が設定している 2-4%の物価目標に到達した効果で買われ、指数は前営業日比 1.2%高と反発。週後半は 6700 ポイントを挟んでもみ合った。今週は 7 日の 21 年 10-12 月期の GDP 発表に続き、10 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。内容次第で上値を試す展開か。

▼指数チャート

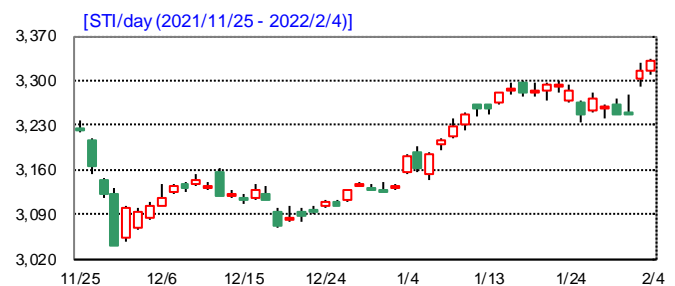


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 2.6%高、週末に終値で 19 年 7 月以来の高値を更新

スレーツタイムズ指数は 3 日間の取引で 2.6%高と反発。1 月月間では 4.0%高。好地合いの中、週末に終値で 19 年 7 月以来の高値を更新した。週初の 31 日は、旧正月前日のため半日立ち合いとなる中、指数は小幅ながら 3 営業日ぶりに反発。連休明けの 3 日は、前日の NY ダウが 4 日続伸した流れを引き継ぎ、前営業日比 2.0%高と終値で 3300 ポイント台に乗せた。4 日は前日にインドの子会社を通じたバングラデシュでの電力事業契約の調印を発表したセムコープ・インダストリーズが指数上昇をけん引し、3 日続伸して取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右しそうだ。

▼指数チャート

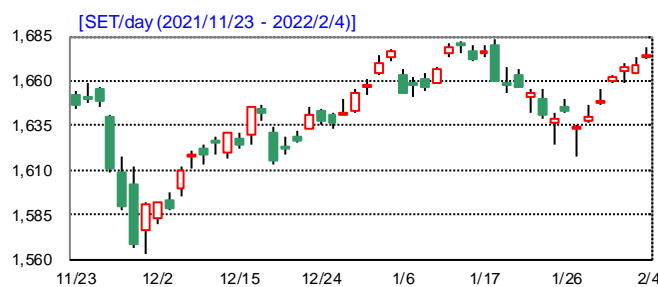


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 2.1%高、今週はタイ石油公社とタイ空港公社の決算が焦点

SET 指数は週間で 2.1%高と 3 週ぶりに反発。1 月月間では 0.5%安。先週は前週末から 6 営業日続伸と好調だった。週初の 31 日は、21 年 12 月の鉱工業生産が前年同月比 6.8%増と市場予想から上振れした効果で指数は続伸。その後も原油高などを背景にじりじりと上値を広げ、4 日には終値で約 3 週間ぶりの高値を更新して取引を終えた。同日に発表された 1 月の CPI 上昇率は前年同月比 3.2%と 21 年 4 月以来の高い伸びとなっている。今週は 9 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。10 日に発表されるタイ石油公社 (PTT) やタイ空港公社の 21 年 10-12 月期の決算内容も指数を左右しそうだ。

▼指数チャート

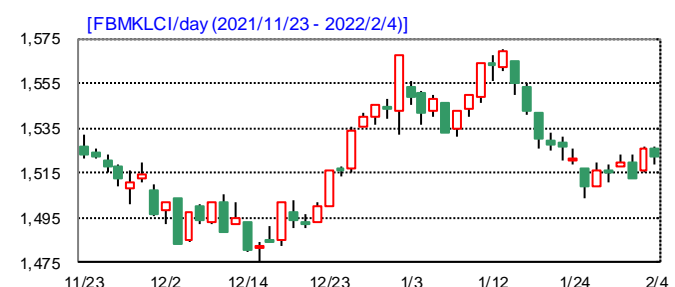


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%高、11 日に 21 年 10-12 月期の GDP 発表

クアラルンプール総合指数は 3 日間の取引で 0.2%高と 3 週ぶりに反発。1 月月間では 3.5%安。先週は買い材料に乏しく、不安定な値動きが続いた。半日立ち合いとなった 31 日は、サイム・ダービー・プランテーションが指数下落を主導。前週末に米当局が同社の強制労働問題に関する十分な証拠があると明らかにしたことが売り材料視された。連休を挟んだ 3 日はメイバンクを含む大型株の一角が買われて指数は反発したが、4 日は利益確定売りで反落して取引を終えている。今週は 8 日に 21 年 12 月の鉱工業生産、11 日に 21 年 10-12 月期の GDP が発表される予定で、市場予想を上回れば株式相場の追い風か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。